

報道関係者各位

株式会社 エフ・ビー・アイ

**総務省消防庁の平成22年度消防防災科学技術研究推進制度におきまして
「消防隊員のストレスマネジメント支援システムの開発」(惨事ストレス対策)が採択される。**

株式会社 エフ・ビー・アイは、全国の消防職員・消防団員向けのストレスマネジメントシステムを、産官学共同研究開発(筑波大学松井研究室、厚木市消防本部)として、総務省消防庁の消防防災科学技術研究推進制度(競争的資金)に採択されました。

当社の、携帯電話(PCでも可能)を使って簡単にメンタルヘルスチェックができるシステム、『こころの体温』Fish Bowl Index(フィッシュボールインデックス)をベースとし、本年度中に開発を終え、来年度より全国消防本部へのサービス開始を目指します。

気軽にいつでもどこでも、セルフメンタルチェックができ、その場で結果に基づき相談窓口につながるシステム『こころの体温』で、全国の自殺防止対策としても実績をあげていることも評価いただきました。

消防職員が、悲惨な現場活動やふだんの救急活動で、外傷性のストレス(惨事ストレス)を受けることは、地方公務員安全衛生推進協会などの研究で繰り返し確認されており、全国の消防本部で惨事ストレス対策を構築しようという機運が高まっています。しかし、消防隊員の業務には特殊性と高度な専門性があり、最適なメンタルケアツールが存在しなかったのが現状です。今回消防職員のための独自の測定尺度を開発し、利用しやすい携帯電話システムを提供することで社会に資することが出来たらと考えております。

今後もより使いやすいもので、エビデンス(学術的背景)のしっかりしたもののみを開発提供して、社会に貢献して参ります。

株式会社エフ・ビー・アイ 概要

所在地：東京都江東区青海2-5-10 テレコムセンタービル

代表取締役：櫻井 康雄

○メンタルチェックシステム『こころの体温計』FBI導入実績

世田谷区、江東区、大田区、荒川区、相模原市、平塚市、秦野市、松崎町、公立学校共済組合宮城支部、全国健康保険協会群馬支部(旧政府管掌健保群馬県)、セントラル自動車健康保険組合、その他民間企業

○メタボチェックシステム「MI5」導入実績

全国健康保険協会群馬支部(旧政府管掌健保群馬県)、その他民間企業

本件に関するお問い合わせ

株式会社 エフ・ビー・アイ 担当：服部

Tel：03-6410-5264 E-mail：hattori@fishbowlindex.com

研究開発

① 研究の進め方

産学官連携（筑波大学・厚木市消防本部・株式会社 エフ・ビー・アイ）により携帯電話を用いた消防職員や消防団員のストレスマネジメントシステムを構築する。具体的には、厚木市消防本部に所属する消防職員・消防団員に対して、惨事ストレスと持続的なストレス状態を把握する調査を実施し、その結果に基づき、惨事直後のストレス測定尺度と、持続的なストレス反応測定尺度を作成する。これらの尺度を（株）エフ・ビー・アイが開発した携帯電話によるストレスチェックシステム（添付資料）に組み入れ、モニター実験などを経て、消防職員にとって利用可能性が高いシステムに整備する。

開発されるシステムは、「惨事直後のストレス反応尺度（地方公務員安全衛生推進協会,2001）」、「持続的ストレス反応尺度（本研究でオリジナル開発）」、「最寄りの相談窓口や相談要員の連絡先リスト」、「関連文献やホームページの紹介」等から構成される。また、本システムでは、相談窓口へ結果画面からそのまま連絡が取れる利便性や守秘性が確保されるため、消防職員には利便性がたかく、利用しやすいシステムとなると考えられる。

実際の現場等の活動に配備可能なレベルに、短期に低開発予算で、実効の上がる課題解決型の研究開発とする。

② 具体的な背景

消防職員の惨事ストレス対策の現況

消防職員が、悲惨な現場活動やふだんの救急活動で、外傷性のストレス（惨事ストレス）を受けることは、地方公務員安全衛生推進協会（2001）や兵庫県こころのケアセンターの研究で繰り返し確認されており、全国の消防本部で惨事ストレス対策を構築しようという機運が高まっている（地方公務員安全衛生協会, 2003 参照）。しかし、東京消防庁や横浜や福岡などのいくつかの政令指定都市の消防本部を除くと、個々の消防本部においては、惨事ストレスに関する情報が十分でなく、外傷性ストレスの専門家との連携が採れず、対策をとる専門要員を育成するゆとりもない現状である。

新たなシステム開発の難しさ

消防隊員の業務には特殊性と高度な専門性があり、極めて市場が限定されることから、メーカーが新たに研究開発を行い、実用・商品化するまでには多額の開発費を要する。その開発経費を価格に反映させると高額なシステムになり、又は回収できないおそれが生ずる。そのため、消防機関等からのニーズはあっても、市場原理だけでは研究開発が積極的に行われにくい現状にある。

また、現在の消防防災に係る研究開発のペースは、災害現場に配備できるまでかなりの時間を要する。そのため、消防機関等のニーズに対応した研究開発課題については、消防機関が参画した産学官連携等により、研究開発を行い、その研究開発成果が実際の災害現場等の活動に早期に配備可能なレベルに到達できる課題解決型の研究開発が求められている。

本研究では、（株）エフ・ビー・アイが開発している携帯版メンタルチェックシステムをベースとして、消防隊員の方々の現場のニーズに対応したストレスマネジメントシステムを開発する。同システムは、既に健診の場で実績のあるシステムであり、エンターテイメント性に優れ、操作のしやすさも評価されている。このため、消防職員の現場ニーズにあった新しいシステムを短期間に開発することが可能になる。

申請者の研究背景とシステム開発の資源

筑波大学カウンセリングコースは現在、総務省消防庁と消防職員の惨事ストレス初級講座を共催しており、申請者は同研修の修了生とともに、惨事ストレスのネットワークを構築しつつある（現在、全国の消防職員 77 名が登録）。このネットワークメンバーを利用しながら、各道府県の消防職員や消防団員が、本システムを用いて気軽に惨事ストレスのセルフチェックを行い、専門機関や惨事ストレスに詳しい同県のメンバーに相談するシステムを構築したい。日本全国の消防職員が身

報道資料

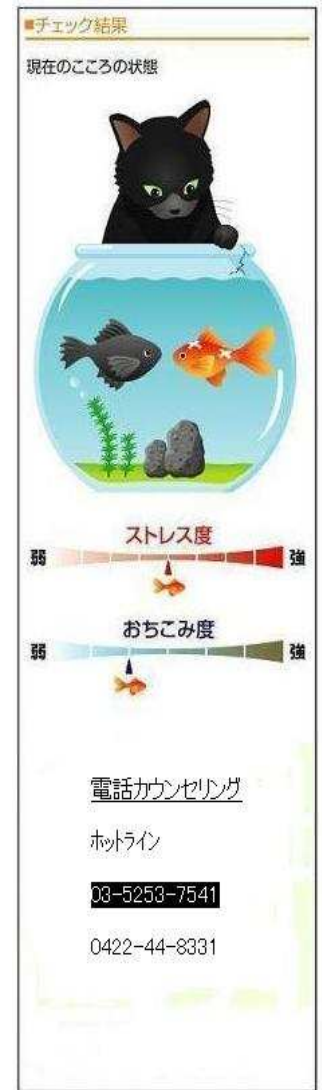
近に専門家がいなくても、惨事ストレスの状態を簡便にチェックし、惨事ストレスの専門家や惨事ストレスに詳しい消防職員に相談できるシステムを構築することが、本研究開発のねらいである。

学問上の特徴

これまでのストレス尺度は、惨事直後に使用するもの（畑中・松井,2007）か、消防職員に特化しない一般的な外傷性ストレス尺度（IESR など）であった。しかし、都市救急現場などでは、特定の惨事ではなく、小規模な惨事が蓄積された持続的なストレス状態に陥る職員も少なくない。本研究では、消防職員の持続的なストレス状態を測定するために、独自の測定尺度を開発し、これまで救うことができなかった持続的な惨事ストレス反応も、ストレスケアの対象に包含することを目指している。



携帯電話版 東海大学と共同開発実用化・商品化した携帯版メンタルセルフチェックサービス
結果画面例



■キャラクター紹介（各キャラクターはそれぞれ4段階でストレス度を表します）

赤金魚		自分の体や病気に対するストレスを表します。レベルが上がるごとにケガをしていきます。
黒金魚		対人関係のストレスを表します。レベルが上がるごとに攻撃的になります。
水槽		家庭環境を表します。レベルが上がるごとにヒビが入ります。
猫		社会的なストレスを表します。レベルが上がるごとに攻撃的になります。
石		その他のストレスを表します。レベルが上がるごとに個数が増えます。
水の透明度		落ち込み具合を表します。レベルが上がるごとに濁っていきます。

水槽の中で泳いでいる赤金魚がユーザー自身です。水槽の中はユーザーの心理的世界が表現され、様々なキャラクターが対人関係や家庭環境など、ユーザーを取り巻く環境によるストレスの度合いを表しています。

キャラクターデザインも消防職員が身近に感じてもらえるようなものに新たに作成する。